

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500050		
法人名	社会福祉法人 緑風会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 いずみの里		
所在地	栃木県鹿沼市泉町2396-3 電話:0289-77-8177		
自己評価作成日	平成28年 8月25日	評価結果市町村受理日	平成28年11月14日

## ※事業所の基本情報は

基本情報	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/">http://www.kaigokensaku.jp/09/</a>
------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成28年 9月30日	評価確定(合意)日	平成28年10月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームには専属の看護師がいないが、介護職員と併設されている小規模多機能型ホームの看護師と連携を取り、ターミナルケアができるよう努めている。昨年は1件のターミナルケアを行ない、ご家族も職員も担当医も、そのご利用者の生活を支えることができた。現在も2名の方がターミナルケアを行なう方向となっている。しかし、ターミナルに近いからターミナルケアを行なうのではなく、元気なうちから話し合いを密にしていき、「充実した生活を送っていただくにはどうしたらよいか？」ということをご家族も職員も考えていけるような環境や時間、信頼関係を築いていけるように努めていきたい。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成20年に市北部の住宅地の一画に小規模多機能と併設で開設した1ユニットの事業所です。理念の「ゆとりとうるおい、輝く笑顔」を基本に年度目標として「笑顔を発掘応援隊～スマイルオンリーワン～」を作成し、一人でも多くの利用者の笑顔と穏やかな表情が得られるよう実践に努めている。一人ひとりへの理解をより深めるため、担当職員は、利用者情報のダイジェスト版(性格、こだわり、気づいて欲しいことなど)を作成し、より本人本位の支援に努めている。事業所の思いや活動状況を掲載した季刊誌(いいあんばい)の継続配布及び地域と部数の拡大で、地域交流会の開催や読者が散歩途中立ち寄り利用者とおしゃべりするなど一段と地域との交流が深まっている。更に、運営推進会議委員の充足を行い地域情報も得られるようになっている。防災についても、緊急連絡網に近所の人5名の登録ができるなど、地域との協力体制も整いつつある。現在2名のターミナルケアの対応を行っているが、常に家族との連携を密にし本人の満足に重点を置いたケアに取り組んでおり、終の棲家として充実した生活の提供を目指している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングの場で、当施設の理念とセクション別の年度目標を唱和しそれらを共有し実践につなげるよう努めている。	理念の具現化に向けて、職員の総意で年度目標「笑顔を発掘応援隊～スマイルオンリーワン～」を掲げ共有を図っている。「絶対ご利用者ペース、ステキな私でいたい、外に出よう」など6項目を具体目標として一人でも多くの利用者の笑顔と穏やかな表情が得られるよう実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。毎年恒例となった、地域交流の一つに「流しそめん大会」があるが今年も行えた。地域のほっとホームの方が見学に来られている。小中高生の体験交流の受入れをおこなっている。	今年で3回目になる事業所主催の地域交流会として老人会の応援を得て流しそめんを実施し(20名の参加)利用者も一緒に楽しめた。季刊誌「いいあんばい」の配布地域を広げ、部数も1,500部になり、地域からの投稿作品も増えるなどしている。更に読者が散歩途中に立ち寄り、利用者とおしゃべりしていくなど一段と交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括センターの協力の下、認知症に関する講座を開催。年4回の季刊誌を発行。配布地域を広げて、理解を深められるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開く。ご家族代表を一人増員し、より多角的な見解で当施設が見られるようになった。	併設と合同で定期開催されている。家族代表(小規模多機能)を1名増員し委員の充実を図っている。事業所の状況報告の後、質疑応答があり、委員からは自治会の防災訓練への参加や、ボランティアの希望者など地域情報の提供が行われる双方向の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課や介護保険課の職員が必ず運営推進会議に参加し、状況報告を行なっている。地域包括支援センターとも連携を密にとり、介護が必要な方々に円滑に介護サービス等の情報を提供できるよう努めている。	市の職員が運営推進会議のメンバーでもあり、事業所の実情は積極的に伝えている。運営推進会議での行事報告などでは写真を回覧すると分かり易いものではなどのアドバイスが得られている。併設の北地域包括支援センターとは一緒に介護必要者の面談や見学に応じるなどの連携で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、周知徹底を図る。身体拘束をしない様、工夫をしながらケアをすすめている。	内部研修では「身体拘束廃止に関する検討、ゼロへの手引き」などを使用し、正しい理解の徹底を図っている。また、ケース記録などからグレーゾーン(紛らわしい対策や、取り組み)の見極めを話し合い身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様虐待に関する勉強会を行なう。職員が良かれと思って行なった介護も、ご利用者にとって不快に感じる対応があるかと思われる。そのようなグレーゾーンな部分を無くせるような勉強を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について研修会に参加した。現在1名後見人制度を使っている方がいる。ご本人と後見人センターの方々、職員と話し合いを持ち、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者、契約前に担当職員が説明をし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族代表を1名→2名へ増員。月一回の連絡ノートでの意見交換を継続。来所時には必ず会話を持つように努める。電話での連絡や相談も密に行なっている。	本人の暮らしぶりや体調変化など電話での連絡や相談が密に行われている。家族との連絡ノートには日用品の補充や季節ごとの衣類交換などの依頼や確認がメインとなっている。訪問時にも運営に関する意見、要望が聞かれることは少ないが、以前実施していた職員の顔写真入りの一覧表の貼りだしの復活の要望などがあり、再掲示を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム及び小規模多機能型ホームの各リーダーとケアマネとセンター長が集まり、主任会議を行なっている。	管理者も介護職の一員として食事介助などで現場に出るケースが多く、現場で職員の意見や要望を聴き、迅速に対応している。個別ケアの外出や地域交流会などの行事は、計画から実施まで職員主体で意見を出し合って実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施。職員1人ひとりが目標、反省を自己評価し、直属の上司と面接を行なう。「処遇改善交付金」適用。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による研修や、事業所内での勉強会を行なっている。法人外での研修にも参加している。介護職員が行ってみたいという研修には参加して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者主催の行事に参加させて頂いている。電話などで情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族から情報を頂き、どのような生活を送りたいのか等の意向を聞かせて頂いている。入居後も随時確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請書欄に書かれている内容と現在の状況を確認し、当施設にて受入れが困難な場合は、他事業所への紹介、情報提供等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者個々の力と馴染みの分野を見極めつつ、出来る事を行なって頂けるよう支援している。職員は、感謝の言葉を忘れず、共に支え合う関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊、外出、面会は時間の制限なく自由にできるようにしている。また、ご利用者の求めや必要に応じ面会をお願いしたり、話し合いを持ち相談等持ちかけ共にご本人を支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年関わった地域の運動会やお祭りに参加。思い出のある観光地に行く機会を作った。入っていたパッチワーク教室の展示会に行ったり、ご家族の葬儀や通夜、ひあげへの付添いも行い、馴染みの人や場所との関係の継続できるよう努めた。	個々の要望に対して個別ケアとしての対応が多くなっている。家族の協力を得て、身内の葬儀に出席し、多くの親族に会えたり、また後見人(親戚)の協力を得て思い出のある観光地として、那珂川の温泉に一泊して楽しむなど馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を考慮しながら、居場所を作り、歌や昔話を楽しんだり、家事を行ないながら、教えあったり、聞きあって、孤立することなく過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	申請中の事業所に相談したり、事業所の情報をご家族や入院先の職員へ提供する等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、表情、行動からご本人の思い等を読み取り、気づきを毎日情報交換し、記録に残しご本人本位の対応を、日々検討している。	数少ない言葉での表現を鵜呑みにせず、問いかけの言葉を替えるなどの工夫をしたり、日々接している中で、表情の変化や、行動などからも本人の思いや意向の把握に努めている。更に、申し送り時の情報も活用し、本当はどうなのかを推し量って本人本位に判断するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、これまでの暮らしをご家族やご本人から聞き取り、その内容を職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日3回の申し送りの都度、様子や気づきを伝え合い対応を検討している。また、カンファレンスを行い個々の対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて随時検討している。計画作成担当及び担当介護職員、ご家族等と話し合い介護計画を作成する。	毎月のケアカンファレンスでは、個別のケース記録やモニタリングの結果から担当職員の意見も参考に短期目標の達成度確認を行っている。原則6ヶ月ごとの見直しを行っているが、大幅な見直し時や退院後の担当者会議には家族の参加を求め、主治医の意見も参考に適宜計画変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録を作成及び月1回担当職員がモニタリングを行なう。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族からの要望(週2回以上のお風呂に入れて欲しい。毎日下着を取り替えてほしい等)に出来るだけ対応している。受診時や帰宅時等に職員送迎にて対応することも多くある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体操教室、フラワーアレンジメント教室を実施し地域の講師との交流を行なっている。又、年2回地域交流会を実施。去年は当施設を知って頂く為のスタンプラリー等を含む交流会を行なった。初夏の流しそうめんは恒例行事となった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、ご家族対応にて行なっている。ご家族の都合で職員が代行、送迎対応も可能。受診後の結果や様子をご家族と共有できるように努めている。	かかりつけ医受診の利用者が6名で、他の3名は協力医に受診している。かかりつけ医とは連携を深め往診可能なケースもある。受診は原則家族同伴で行っているが、車椅子利用者が多く、家族に操作の不安があるなどの理由で事業所での対応が増えている。受診後の情報は口頭で受けたり、連絡ノートを活用するケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師により、健康チェックを行なっている。常に連絡報告できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にサマリー等を活用し、情報提供に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年度は1件ターミナルケアを行なった。現在も2件のターミナルケアを行なっている。ご家族と話し合い、ご利用者が安心できる生活スタイルを随時模索している。	契約時に事業所での終末期対応を説明すると共に、元気な内から終末期をどのように迎えたいのかについて本人・家族との話し合いを試みている。現在2件の終末期ステージの方がいるが、職員間できめ細かい情報交換で何よりも本人の満足度を最優先する対応に努めている。食事でも寿司が食べたいとの希望に応じて寿司ゼリーを提供し、喜ばれている事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED研修を行なう。職員ほぼ全員が救命救急講習を受講済。AEDを設置し急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行なう。近隣の方々の携帯電話を控え、緊急時には連絡し、ご協力して頂けることになっている。	27年4月、28年3月、10月(予定)に訓練を実施している。消防署への通報に連動した緊急連絡網に近所の人(5名)の登録ができたり、訓練に地域の人(3名)や家族(2名)の参加も得られるようになり、地域との協力体制も整いつつある。反省事項として、現場で指揮を執る職員が必要、職員連絡網の見直しの必要性などが挙げられ、予定している避難訓練の見直しに関する話し合いを通して、次の訓練に繋げようとしている。	避難訓練の中で煙対応についての考慮が窺われません、煙を意識した避難訓練の実施に期待します。職員連絡網の見直しと連絡網が実際に短時間で途切れることなく繋がるのかの早期確認にも期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け一つでご利用者のプライドや個性を壊してしまう為、職員同士で注意しあうようにしている。	難聴者も多く、声掛けや傾聴時には表情や、動きに注目し、同じ目線での対応を大切にしている。一人ひとりへの理解をより深めるため、担当職員は、利用者情報のダイジェスト版(性格、こだわり、気づいて欲しいことなど)を作成し、日々更新しながら人格の尊重と誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	利用者情報のダイジェスト版を全利用者について作成を行い、さらなる活用で本人本位のケアが継続されることに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご希望を聞き、外出支援や日頃の趣味に活かせるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間等を個人もペースにてサービス提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師が月2回来られ、ご利用者からの急な理髪希望にも対応できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フロア内のキッチンにて食事を作っている為、その日のご利用者の身体状況や気分により柔軟に変更が可能。	職員が当番制でメニュー作成、食材手配、調理を行い、当日の利用者の状況に合わせてご飯をパンにしたり、揚げ物を煮物に変更するなど柔軟に提供している。出来る利用者は「もやしのひげ取り」など手伝う時もある。介助必要者には職員と一緒に食べながら介助している。車椅子の高さに合わせて食べ易い様にテーブルの一部に工夫を施している。継続している月1度の出前のメニュー選びは楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、不足している方に好みの飲み物を用意したり、ご本人の飲めるタイミングを見極め、いつでも用意するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後に口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツのみの方が1名、布パンツでパット使用の方4名、紙パンツとパットの方2名、紙パンツのみの方1名いる。個々により居室にPトイレを置いたり昔ながらのちり紙とゴミ箱を置く等環境を整え、自立できる工夫をしている。	意思表示が可能な人が多く、立ち上がりや周囲を見回すなどの動作から察しての声掛けと、時間のさり気ない声掛けを人によって使い分けている。5部屋が室内トイレであり、夜間はナースコール(1人)と、人感センサー(4人)によりトイレ排泄の介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況をチェックし個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行なっている。水分の確保やヤクルト、センナ茶等を飲んで頂き、適度な運動を取り入れ、自然な排泄を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の気持ちや体調に合わせて臨機応変に入浴できるようにしている。季節に合わせて菖蒲湯、ゆず湯も取り入れている。職員とマンツーマンでゆっくり入浴して頂けることで、良いコミュニケーションの場になっている。	週3回を原則として夕方までの時間帯で気分や体調に応じて入浴しているが、リフト利用者3名は午後入浴となっている。誘導から着脱衣、洗身を当日の入浴当番が担当し、1対1の対応で本音の聴ける貴重な場にもなっている。看取りステージで風呂好きな人には家族と相談して訪問入浴を利用し、本人の満足に応える支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや、身体状況に合わせて休息をとって頂いている。昼夜逆転にならないよう注意し、個々のタイミングに合わせて、気持ち良く寝起きできるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が個々の薬の内容を理解して服薬の支援をしている。症状の変化に注意し場合によってはご家族と連携し医療機関に相談することもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や農業の経験者が多いので、畑での野菜作りにも力を入れることにより、畑を見に行ったり、収穫する楽しみをもって下さる方が多い。収穫した物は食事に取り入れると喜んで頂ける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃、体調や天候を見ながら、中庭に出たり、散歩に出掛け、外気に触れられるよう努めている。季節に合わせて、花を見に行ったり、地域のイベントに参加してもらったりする他、個別ケアとして1対1で希望の場所へ外出する機会も作っている。	体調や天候を見ながら中庭で家庭菜園の出来具合を確認したり、テラスでのお茶会など外気浴に努めている。御殿山の桜や磯山神社のあじさいなど季節の花見や地域の夏祭り見物などに出かけている。個別ケアとして昔通っていたパッチワーク教室の展示会に行くなどの支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にて管理。3か月毎に領収書、収支報告書をご家族へ渡し、報告している。施設の自販機でジュースを購入される方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に合わせ、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の作品をより美しく展示できるよう努めている。毎日次亜塩素酸を使用し清掃している。季節の花は絶やさず、装飾等を工夫して、明るく落ち着いた空間作りに努めている。	ワンフロアの広いリビングダイニングには利用者が小中学生やボランティアの人達と一緒に作った作品を見栄えよく展示している。季節を問わず花の差し入れがあり、装飾品と併せ季節感を演出している。車椅子や歩行補助具の利用者が多く、テーブルやソファなどは動線に配慮して配置され、落ち着いた空間で居心地良く過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2か所コタツのスペースを設けている。それぞれが落ち着ける場所で過ごされている。職員は思いを察知しながらそれぞれにあった生活の仕方を支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談しながら家族写真を飾ったり、使い慣れた家具やベッド等を自由に持ち込み使用して頂いている。使いやすい配置にし、出来るだけ自立できるよう工夫している。	全室洋室で洗面、クローゼットが付いており、内5室はトイレ付で、ゆったりとした広さがある。使い慣れたベッドや椅子などの家具、趣味の電子オルガンを持ち込み教師時代を思い出し楽しんでいる人もいる。夜間起床時のふらつき転倒に配慮し、個々人の事情に応じてスリッパや、補助具の置き場所を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの高さ、テーブル、ダンス、椅子等の位置を工夫し自立した生活が送れるようにしている。転倒のリスクのある方の居室にはクッションマットを敷き、又、動かれた時に職員側だけ音が鳴るセンサーを使用。その際には同意を得ている。		